◇経済倶楽部講演会第4558回（11月14日）

AIトレンドと〝ビジネス現場の再設計〟

ITジャーナリスト　本田（ほんだ）雅一（まさかず）

＊探索に加えてエージェントへと進化中
＊個人のアクション、業務内製化を後押し
＊人間はAIの「幻覚」に気をつける
＊ここまでできる！デザインや録音・記録の活用例
＊業界に特化したエージェントが活躍
＊AIはカスタマー対応や財務に向く
＊主なレイヤーと主要プレーヤー
＊創薬向けAI開発で注目の日本企業
＊全社一斉導入はあまり意味がない
＊付度の仕組みはないが、望む答えを出しやすい

山縣　それでは開会いたします。（拍手）

今日の講師をご紹介いたします。ITジャーナリストの本田雅一様をお招きしました。

本田さんは30年以上にわたって、IT業界、エレクトロニクスの業界を取材されてきました。第一人者として、『東洋経済オンライン』でも書いていただいていて、もう10年以上になると思います。もちろん『週刊東洋経済』でもご執筆いただいたり、本を出していただいたりということです。

本田さんはGAFAにも非常に強くて、GAFAのトップにもインタビューされますし、現場の技術者にも当たって詳しく取材をされていて、テクノロジーについて非常にきちっとした知識を持って業界を見ているという方であります。ですから、新製品などについても非常に細かな検証レポートを『東洋経済オンライン』などに配信されていまして、多くの方がそれを参考にしているということです。

最近はご存じのようにAIの動向が非常に激しくなっております。AIをどう捉えて、特にビジネスの世界がどうそれを取り入れていったらいいかということが大問題になっておりますので、今日は業界の全体の動向と、実際どのようにビジネスに生かす道があるのかといった点などについてもお話しいただけると思います。

それでは先生、よろしくお願いします。（拍手）

本田　本田雅一と申します。よろしくお願いします。ご紹介いただいたように、90年代から